

理科だより

Sense of Wonder (センス・オブ・ワンダー)

No.2 2023. 6. 13

高知市立高須小学校
理科だより編集部



卒業式では校内を美しく彩ってくれた一人一鉢栽培で育てたパンジーたち。6月になってはまだ頑張ってお花を咲かせています。もう茎の色も緑色が薄くなり、少し枯れているところも見られます。雑草が生えてきている鉢もあります。でも、これわざとお手入れをしないでおいています。それにはわけがあるのです。実は、このパンジーたちは3年生の学習に役立っているのです。

5月31日理科放送がありました。その中にパンジーがどんな風に役立っているかの答えがありました。

理科放送 (3年生) から

高須小学校では各学年が1年間の間に1度理科放送を行っています。5月は3年生。テーマは「チョウの育て方」です。いきなり登場したのは黒い幼虫。どうですか。なかなかの見た目ですね。「毛虫と見間違える」ような姿です。

この幼虫の正体はツマグロヒョウモンというチョウの幼虫です。

3年生では理科の学習で「こん虫の育て方」を学びます。教科書で扱われるのはみなさんご存じのモンシロチョウ。高須小学校でもよく見られます。3年生は学習の準備として3月の終わりに学級園に少しキャベツを植えていました。そこで発見したモンシロチョウの育て方を実際に観察した写真を使ってみんな

に伝えてくれました。

成虫



たまご



よう虫



さなぎ



成虫



幼虫が体を大きくするときや、さなぎになるときに行く脱皮の瞬間の動画記録も紹介してくれました。よく観察していましたねえ。すごい！！

教室で羽化した成虫は、子どもたちに見送られて外へとびたっていきます。

3年生では理科の学習としてチョウの育て方を観察します。しかし、モンシロチョウやツマグロヒョウモンにはほとんどの子どもがそれまでに出会っていません。1年生の生活科「きせつとなかよし」の学習の中でも

出会います。自分の体験したことや身近な自然を科学的に認識することが3年生の学習です。

3年生の理科で大切にしたいことのひとつに「比較する」ことがあります。モンシロチョウを観察し、学んだあと、「ほかのチョウはどんなの？食べるものって決まっているの？」と考えを広げます。教科書にはミカンの仲間に集まるアゲハチョウが紹介されています。でも、この高須小学校には比較できる本物がいるのです。パンジーに集まってくるチョウがいます。それが上の写真のツマグロヒョウモンなのです。モンシロチョウとツマグロヒョウモンを育て観察することで同じところや違うところを自分の目で見て感じながら学んでいくことができます。そして、さらにほかのこん虫にも目を向けることができると、幼虫→さなぎ→成虫と姿を変える仲間（カブトムシ、テントウムシなど）と、ほぼ同じ姿で成虫まで成長する仲間（バッタ、カマキリなど）がいることにも気付いてくれるかもしれません。

ツマグロヒョウモンを呼ぶために、パンジーの鉢を残していたのです。約500個のパンジーの鉢がある高須小学校はツマグロヒョウモンにとってとても素敵な場所になっていることでしょう。

飼育ケースの中で羽化したばかりの成虫

羽根を開くとこんな模様



ツマグロヒョウモンのさなぎは一見の価値あり…神秘的な光を放つすがたはまさに自然の不思議さ、美しさを実感できます。高須小学校の子どもたちならきっと1度は見たことがあるのではないかな。

不思議な植物ハンゲショウ



今の時期に咲く花の一つに「半夏生（ハンゲショウ）」があります。ドクダミ科の多年草で別名カタシロクサとも呼ばれるそうです。花が咲くときに合わせて上にある葉が白く変色することから「半化粧→半夏生」と呼ばれるようになったという説もあります。

この花は虫媒花（虫によって受粉する仲間）ですが、花びらをもっていません。そのために葉を白くして虫を誘っているのだそうです。花の時期が終わると、白かった葉は緑になっていきます。

いったいどうやってそんな力を身に付けたのかはわかりませんが、私たちのすぐ近くにある自然の不思議さや面白さに目を向けたり、感じたりできるゆとりが「センス・オブ・ワンダー」なのかもしれません。

今、高須小学校の正面玄関の植え込みの中でハンゲショウが咲いています。ぜひ、本物を見てください。※理科だより…本校ホームページ（お知らせ→理科だより）ではカラー写真でもう少しわかりやすいと思います。よろしければご覧ください。